

ソーシャルコスト検討委員会

SOCIAL COST

委員会では施工済みの実管路工事を対象に、開削工法及び非開削工法のそれぞれについて、工事に伴うソーシャルコスト（社会的外部費用）の実態調査を行ってきた。引き続いて現在は、幾つかの都市内の代表的な道路条件を選定し、交通流阻害に起因するソーシャルコスト（社会的外部費用）の影響度合いの検討（費用の試算）を、開削工法と非開削工法のそれぞれについて行っている。この結果、交通流阻害に起因するソーシャルコストの値は、道路車線数や交通量、また交差点の位置や非開削工法の場合は立坑間隔などに

よって大きく変化する事が確認できた。このことは、直接工事費とソーシャルコストの合計である総工事費から見た非開削工法の優位性は、道路条件や非開削工法の立坑間隔などによって変動する事を示している。

当委員会は当面の活動目標を「ソーシャルコスト（社会的外部費用）検討マニュアルの策定」としている。これらの内容を踏まえ、このマニュアルでは合計の総工事費で非開削工法が優位な条件領域の提示を目指している。

工法ナビゲーションシステム運営委員会

TRENCHLESS METHOD NAVIGATION SYSTEM

工法ナビゲーションは、日本の非開削技術全般をカバーする工法検索システムとして運用してきている。現在のナビゲーションでは、推進関係の4つの技術区分（推進工法、取付管推進工法、HDD工法、改築推進工法）と「下水道管渠更生工法」「ケーシング（小型）立坑工法」の2つの技術区分で、公的標準類に基づく施工条件から工法検索が行えるようになっている。この中のHDD工法については、利便性の向上を目指し、利用者目線を意識した検索内容の更新を行った。

トップページでは、お知らせ・更新履歴を最上段に位置換えし、最新情報が見易くなりました。

一方、公的標準類が未整備の技術については「非開削特殊工法」の中に一括で収納し、技術情報を提供している。この中には今後の利用拡大が見込まれる「超大口径管推進工法」や「地下探査技術」が含まれており、これらの取り扱いの見直しの検討を進めている。

WHAT'S NEW

2012/3/5 HDD工法の曲線時の施工延長を計算表示出来るようにしました。
 2012/2/20 下記の工法の施工実績を更新致しました。
 扇形パラスセメントシルド工法
 リターン回収掘削工法
 メカニカルブラインド工法
 アルティミット工法
 ユニコーンロング工法
 ユニコーン工法
 ユニコーンM工法
 コスミック工法

工法ナビとは？

工法ナビは、現場条件、施工実績、工法名などから最適な工法を検索できる「非開削技術検索サイト」です。無料ですべて利用いただけます。

技術区分	検索方法		
	現場条件から検索	施工実績から検索	協会名、工法・資材名等から検索
推進工法（小、中口径）	運用中	運用中	運用中
取付管推進工法	運用中	運用中	運用中
生搬掘式光ファイバー（HDD）工法	—	運用中	運用中
生搬掘推進工法	運用中	運用中	運用中
生搬掘更生工法（下水道）	運用中	—	運用中
ケーシング（小型）立坑工法	運用中	運用中	運用中
非開削特殊工法（探査・掘削など）	準備中	準備中	運用中
非開削資材・材料	—	—	運用中

お知らせ・更新履歴を最上段に位置換えし、最新情報が見易くなりました

HDD工法は2011年4月に標準設計資料類（設計積算要領，機械器具算定参考資料，施工管理の手引き）を改訂発行している。一方，HDD工法は経済的に競争力があると思われるにもかかわらず，普及が十分に進んでいるとは言い切れない。委員会では，この現状に対する原因と対策を協議している。この対策の一環として，これまで大宮市内と仙台市内において，水道・ガス・通信などHDD工法に適した設備形態を有する企業者やコンサルタントなどを対象に技術説明

会を開催してきた。この説明会は，普及の拡大への地道な努力として今後も継続開催を計画している。また，HDD工法の工法ナビゲーションについても検索内容を利用者目線で更新することとしてその内容の論議を進め，新たな検索画面を立ち上げている。一方，HDD工法の特長が上手く活かされた実績を掲載している施工事例集については，2009年の発行以降新たな実績も発生しているので，2012年度事業として更新することとした。

地下探査技術委員会

UNDERGROUND DETECTION

委員会では，「地下探査マニュアル（案）」の策定のための第一段階として，地下探査技術の利用目的と採用される探査技術，また探査結果の報告様式，報告内容などを調査し，多くの技術が多くの用途に利用されていること，結果の報告様式も多様であること等を把握した。しかし，マニュアル（案）としては対象用途，

技術を一定の範囲に絞り込み，探査技術の品質維持とこれに伴う普及の拡大を目指すこととした。その結果，用途は都市内の空洞，埋設物，その他構造物の存在・位置を探知・探査を対象とすることとし，探査技術は地中レーダと電磁誘導を取り上げることとした。

現在は，それぞれの技術と用途別に探査の進め方の整理と探査に用いる用語の整理を進めている。

【条件・用途から見た適用技術と探査方法の区分のイメージ】

